

2024年2月16日  
原子力エネルギー協議会 (ATENA)

日本機械学会 溶接規格 2020 年版 溶接施工法の組合せ及び溶接士技能試験  
を技術評価対象として頂く理由について

日本機械学会 溶接規格 2020 年版は、実機溶接部の機能・性能に影響を与えないことを前提に、各溶接施工工場が保有している溶接施工法を有効に活用し、また、溶接士資格の維持を合理的に実施できるようにするため、ASME 規格等を参考に策定されている。

主要重電メーカー及び中小溶接施工工場におけるリソースの概略値は表 1 のとおりであり、これらリソースを有効に活用し、また合理的に維持していく観点で、規格策定の意義は非常に大きく、上記を技術評価して頂くことが原子力産業界全体を継続して維持していくことに繋がるものと考えている。

表 1 溶接施工工場のリソース(概略値)

	現状の施工法の保有数※ <sup>1</sup>	溶接士人数(技能資格数)※ <sup>2</sup>
主要重電メーカー	約 440	約 50(約 140)
中小溶接施工工場	約 100	約 10(約 10)

※ 1 : 2020 年版に読み替えた上で組合せの施工法の新たな設計に活用可能な施工法の数

※ 2 : 工事量が少なくても資格失効が回避される溶接士の数

なお、溶接施工法新規取得時の試験記録の保管状況についても調査した結果、約半数の工場ですべての記録を保管できていない状況であり、溶接施工方法の 2020 年版への読み替え規定の救済措置についても、規格策定の意義は非常に大きい。

以 上